

■教育目的

11週間の標準薬局実務実習を基礎として、薬局の社会的役割と責任を理解し地域医療に参画する「就業体験型」の実習、および、地域医療における問題発見能力を養い解決法を提案できる「課題解決型」の学習に取り組むことによって、地域医療に貢献する薬剤師業務のより深い知識、技能、態度を修得する。【卒業認定・学位授与の方針：YD-①～⑥】

■学習到達目標

1. 地域社会での患者・顧客の健康管理において、患者・顧客から収集した情報を基に最善のアドバイスをすることができる。
2. 在宅医療、地域医療、地域福祉、災害時医療、地域保健などの場で、薬剤師の職能を地域社会に拡大し地域に貢献することができる。
3. 地域医療機関における医師、およびその他の医療従事者との連携をとることができる。
4. 調剤、服薬指導、患者・顧客接遇、地域医療、セルフメディケーションなどにおける薬局薬剤師の社会的役割と責任を理解することができる。
5. 地域医療における問題点を発見し、その解決法を提案できる。

■準備学習（予習・復習）

予習：事前学習を中心に知識・技能の向上をはかしておく。また、11週間の標準実務実習を終えてより深く学びたいコースの自己目標を定めておく。（実習準備期間 1週間）

復習：毎日の実習内容を振り返り（60分）、知識と臨床を繋げて修得する。

■授業内容

No.	項目	授業内容	SBOコード
1	事前学習	オリエンテーション、薬局業務の基礎知識（講義、テスト）、コース実習における研究テーマに向けての文献検索（Pub-Med、医中誌）、統計解析演習、高齢者・在宅介護体験を通してコース実習に備える。	
2	実習、演習	11週間の標準薬局実務実習を基礎とし、各実習施設の特徴に応じて行う15週間のアドバンス実習を行う。各自、実習施設において地域医療における問題点をテーマとして研究を行い、研究レポート（論文形式）を作成する。週1日（金曜日）大学においてゼミに参加し、研究ゼミおよび課題ゼミ等をSGD形式で行う。	C18 (3) -1~4
3	事後学習	実習報告会にて発表を各自行う。 本実習を通して作成した各自の研究レポートは、6年次における地域医療コース特論において教材として利用する。	

■授業分担者

山崎 紀子（責任者）、下川 健一（副責任者）、中舘 和彦（副責任者）、飯田 克巳、石橋 芳雄、井上 元基、植沢 芳広、大西 優、菅野 敦之、岸田 敦、小関 珠美、斎坂 ゆかり、杉山 重夫、深水 啓朗、宮沢 伸介、山田 聖子

■課題（レポート、試験等）のフィードバック及び成績評価方法

学内事前学習および事後面談 10%、学内ゼミ 10%、研究レポート 20%、報告会 40%および地域医療コース指導薬剤師の評価 20%にて評価を行う。